

令和六年三月十日(日)

第三十六回

なにはづ芸術文化祭 冠沓句集

大本大阪本苑

第三十六回なにはづ芸術文化祭冠沓句集

冠句題

いつの日か・それぞれに・どこまでも

沓句題

わが想い

投句者数 二十四 名

集 句 九十四 句

抜 句 七十二 句

選 者 谷内 滋治

第三十六回なにはづ芸術文化祭冠沓句集

平 調

二十五 句

佳 調

十七 句

秀 調

二十 句

特別 秀調

六 句

四 光明

四 句

令和六年三月九日(土)発行

大本大阪本苑 芸術部

平調

それぞれに小物作りて日を送る  
神の家針ひとすじにわが想い

三島 足立 しげ子

それぞれに好物はさんだ手巻き寿司  
生まれ来て感謝ばかりのわが想い

三島 神門 明子

それぞれに神命活かし奉仕する

三島 足立 正文

省みて勇氣出で来ぬわが想い

枚方 浅田 秋彦

いつの日か戦い終り子ら歌う

枚方 坂本 由子

いつの日か生まれ変わりて夢かなう  
それぞれに何とか上手く生きてゆく  
梅の香風に吹かれてわが想い

枚方 小笹 順子

それぞれに神のみ守り有り難し  
それぞれに特技生かしてご奉仕す

枚方 森田 陞

いつの日か復興とげむ能登を待つ  
どこまでも主一無敵の信をもつ

枚方 森田 幸子

この大本信仰継いでほしいとわが想い

城東 中口 ツギエ

いつの日か神都造営ミロクの世

木の花 恩地 宏

それぞれに役割あるとお使いす

御津ノ浜 高枝 悦美

いつの日か満杯になる神の家  
それぞれに個性豊かな神の家

御津ノ浜 島村 直子

どこまでも神をめあてにつきすすむ

貝塚 伊藤 香

それぞれに神のご用に生かされて  
神様は全てご存知わが想い

貝塚 伊藤 千代美

兄が去り早や二十年わが想い

泉州 楠田 都庸次

それぞれに思いを馳せる親の顔  
どこまでも続くこの道修業道

曙 城本 志のぶ

## 佳調

いつの日か戦ひ終るみろくの世  
さびしき子寄り添いゆかんわが想い

枚方 坂本 由子

どこまでも世界平和を祈りおり

枚方 小笹 順子

いつの日かエス語に海外旅行せむ  
どこまでも神一筋に生きていく

枚方 森田 陞

それぞれに使命をもちて魂みがく

枚方 森田 幸子

いつの日か死刑廃止をひた祈る

城東 中口 ツギエ

それぞれに歩みし道に神の愛

神路 宇佐美日出子

それぞれに児等元気よくすすみ行け

神路 惣田 安紀州子

能登に春平穩祈るわが想い

玉川 神崎 真理子

いつの日か能登の復興みとどけに

御津ノ浜 高枝 悦美

いつの日かエルサレムでの歌祭り  
それぞれにまこと捧げる綾の郷  
天災のない世界にとわが想い

貝塚 伊藤 香

いつの日かひ孫を抱ける日まで生く

貝塚 伊藤 千代美

いつの日か父母に追いつけ宣伝使  
どこまでもみちびき胸につきすすめ

曙 城本 敬夫

## 秀調

いつの日か花さく時のたねをまく  
どこまでもたのしくすごす歌作り

三島 足立 しげ子

どこまでも慈愛の神は見守りて

三島 神門 明子

いつの日か神の御教え子に解り  
戦争の無い日々願うわが想い

三島 足立 正文

それぞれに身魂をみがき大和合

枚方 浅田 秋彦

それぞれに生業励みご神業

枚方 坂本 由子

どこまでも神を支えに余命生く

枚方 浅田 弘子

それぞれにわれよしを止め和合せむ

枚方 森田 陸

それぞれに御光たまう神の家

枚方 森田 幸子

いつの日かふる里帰る夢に見て

城東 柳川 祐子

三代の道が続けとわが想い

神路 宇佐美 日出子

いつの日か乗ってみたい宇宙船  
どこまでも大神様をみ光に

神路 惣田 安紀子

いつの日か宇宙より月を見てみたい

玉川 神崎 真理子

それぞれに腹に覚悟の大峠  
いつの日か孫らにたくす祭りごと

木の花 恩地 宏

どこまでも教えの道を歩む我

貝塚 内藤 義雄

どこまでも手を携えてみろくの世

貝塚 伊藤 香

争いのない日を望むわが想い

曙 城本 志のぶ

## 特別秀調

どこまでも継承したい神の道

三島

足立 正文

いつの日かエスぺラントを話したい

枚方

浅田 秋彦

いつの日か逝く日にと書く生い立ちを

枚方

浅田 弘子

それぞれに足るを知りたる大地震

枚方

森田 幸子

それぞれに与えられたる神の道

神路

宇佐美 賢治

どこまでも子々孫々へ神の道

木の花

恩地 宏

## 四光明

軸

どこまでも神示されし道む

神路

宇佐美 日出子

人

いつの日か笑顔で集うみろくの世

曙

城本 志のぶ

地

どこまでも国境のない国作り

枚方

坂本 由子

天

それぞれにミロクの世へと魂磨き

城東

中口 ツギエ

毎月冠沓句 天

令和五年三月〜十二月

三月

あたたかな人は誠の道の人

三島 矢野 義男

四月

うるはしき頂上おそらに神坐す弥仙山

三島 神門 明子

五月

子や孫に平和な世界の種をまく

三島 谷内 いづみ

六月

ありのまま生きよと言われた尊師さま

三島 足立 正文

七月

行いをたのしく暮らす九十四くしの年

三島 足立 しげ子

八月

道しるべ人に伝えよ宣伝使

三島 矢野 義男

九月

綾の郷土地落札しバンバンザイ

泉州 楠田 都庸次

十月

わきあがる熱い思いの運動会

若松 乾 幸太郎

十一月

紅葉の落ち葉のジュウタン神の庭

城東 柳川 祐子

十二月

大掃除この一年に感謝して

木の花 恩地 宏